

特集：理研 iTHEMS 研究員の体験談

はじめに—理化学研究所 数理創造プログラムについて

理化学研究所 数理創造プログラム
プログラムディレクター
初田 哲男

理化学研究所（理研）には、数学・物理学・化学・生物学・計算科学・情報科学など、広い意味での数理科学の研究者が分野横断的に集まった数理創造プログラム（iTHEMS）というセンターがあります。理研の沿革や理研における数理科学研究については、すでに坪井俊さん（数学通信 24 巻 3 号）や坂内健一さん（数学通信 24 巻 4 号）による紹介がありますのでご覧ください。（iTHEMS では、年齢や職階にかかわらず互いに“さん”で呼び合うことにしていますので、ここでもその慣習に従うことにします。）iTHEMS の活動の詳細については、<https://ithems.riken.jp/ja> を参照して頂ければと思います。

2016 年 11 月に発足した iTHEMS は、2022 年 7 月末時点で 36 名の若手研究員（内 9 名が数学分野）を中核として、理研内の兼任研究者 12 名、理研外の客員研究者 68 名（内 13 名が数学分野）、学生・研修員 11 名（内 1 名が数学分野）で構成されています（<https://ithems.riken.jp/ja/members>）。2017 年以来、数学分野に限れば、延べ 28 名の若手研究者が iTHEMS の活動に参画し、今回の執筆者である 4 名の方々も iTHEMS を経て大学や企業の研究機関で活躍されています。

iTHEMS の理念は、若手研究者が分野を越えた交流により様々な刺激を受け、それを糧に各々の専門分野で卓越した成果をあげるとともに、これまでになかったような共同研究の芽を育むことです。数年で短期的な成果を求めることは、数理科学研究においては意味が無いので、iTHEMS の主眼は、若手研究者が自由な発想で研究および交流できる環境を整備することに置かれます。

私自身は、数学を道具として使う立場の理論物理学者ですが、上記のような“iTHEMS 精神”を醸成するには、純粋数学・応用数学を専門とするシニア研究者のバックアップも不可欠です。幸いにして、副プログラムディレクターの坪井俊さんを中心に、森重文さん、若山正人さん、深谷賢治さん、水藤寛さん、河東泰之さん、坂上貴之さん、小谷元子さん、合原一幸さん、國府寛司さんが iTHEMS の趣旨に賛同し、特別顧問・研究嘱託・客員主管研究員・客員研究員として iTHEMS の活動を支えて下さっており、たいへん心強く感じています。

それでは、iTHEMS 卒業生 4 名のフレッシュな体験談をお楽しみください！